

日本の名作名文ハイライト

初恋

小諸なる古城のほとり

島崎藤村

朗読

江崎恭子、尾崎淑子

太田千代子、木村澄江

出所

ザ・架け橋 ストーリー工房

<http://the-kakehashi.jp/>

teabreak 編

藤村詩抄より

島崎藤村

初恋

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の實に
人こひ初めしはじめなり

わがこゝろなきためいきの
その髪の毛にかゝるとき
たのしき戀の盃を
君が情に酌みしかな

林檎畑の樹の下に

おのづからなる細道は

誰が踏みそめしかたみぞと

問ひたまふこそうれしけれ

小諸なる古城のほとり

小諸なる古城のほとり

雲白く遊子悲しむ

緑なすはこべは萌えず

若草も籍くによしなし

しろがねの衾の岡辺

日に溶けて淡雪流る

あたゝかき光はあれど

野に満つる香も知らず

浅くのみ春は霞みて

麦の色わずかに青し

旅人の群はいくつか
畠中の道を急ぎぬ

暮行けば浅間も見えず

歌哀し佐久の草笛

千曲川いざよう波の

岸近き宿にのぼりつ

濁り酒濁れる飲みて

草枕しばし慰む